

【プロムナード計画の利活用の推進に向けた提案】

●サインプロジェクト（仮称）

サインプロジェクト（仮称）は、市民、行政、学識経験者など「いのまき水と緑のプロムナード計画」に係る人たちの連携と協働により、サインの検討から設置を行う。また、設置後のサインの更新や充実を図る活動を継続的に行うことを想定する、市民参加型のプロジェクトとする。

▼サインプロジェクト（仮称）の連携・協働イメージ



●サインプロジェクトの活動方針（案）

サインプロジェクトは、以下の3つの方針で活動する。

方針① 石巻の歴史や文化・産業を、観光客等の外来者に分かりやすく説明するとともに、市民にとっても、学習しながら古き良き石巻の姿に思いを馳せることのできるサインの検討を行う。

方針② 活動を通じて、石巻の歴史・文化の伝承の担い手を育成する。

方針③ 参加者が楽しみながら活動し、将来にわたって継続する。

活動内容（案）

①ワークショップ等によるサインの検討

・ワークショップ等を開催し、石巻の歴史、文化、産業等の解説や、個々の施設の説明等を市民との協働により検討する。



▲ワークショップの事例写真

②市民によるサイン検討と設置

・サインの配設置や製作、設置など、実施に向けた検討を行う。
・例えば、製作から設置までを市民自らが実施するなどにも考えられる。



▲説明看板のイメージ
市民視点でわかりやすく、深みのある説明文を作成

③プロムナードマップの作成

・市街地の観光施設や魅力あるポイント、トイレ、食事処、バス停留所、回遊する散策路などを分かりやすく記したマップを作成する。



▲フットパスのイメージ（最上川朝日）

④プロジェクトのフォローアップ

・分かりやすさや見やすさ等について、来訪者のヒアリングやアンケート等を実施しながら検証し、継続的にサインの内容更新や設置箇所追加、充実を図っていく。



▲イベント風景の事例写真（遠賀川）

プロムナード計画の避難の考え方

各拠点、ルートの特徴

- ・プロムナード計画の各拠点、ルートは、海に近い沿岸、河川沿いであることから、プロムナード計画での避難は、主として津波を考慮する。
- ・プロムナード計画の各拠点、ルートから避難することを想定した場合の現状は図のとおりである。

- 【ルート④・⑥・拠点F】
- ・右岸側は、小学校やマンション等があるが、場所によって距離がある。
 - ・橋を渡って対岸の山まで逃げようとする時間がかかる。
 - ・左岸側は、近くに高いところがない。最寄りの山まで逃げようとする時間がかかる。

- 【ルート⑤・拠点G・拠点H】
- ・運河沿いにマンションや事務所、学校等の高い建物があるが、場所によって距離があり、スムーズに移動できる避難路も少ない。

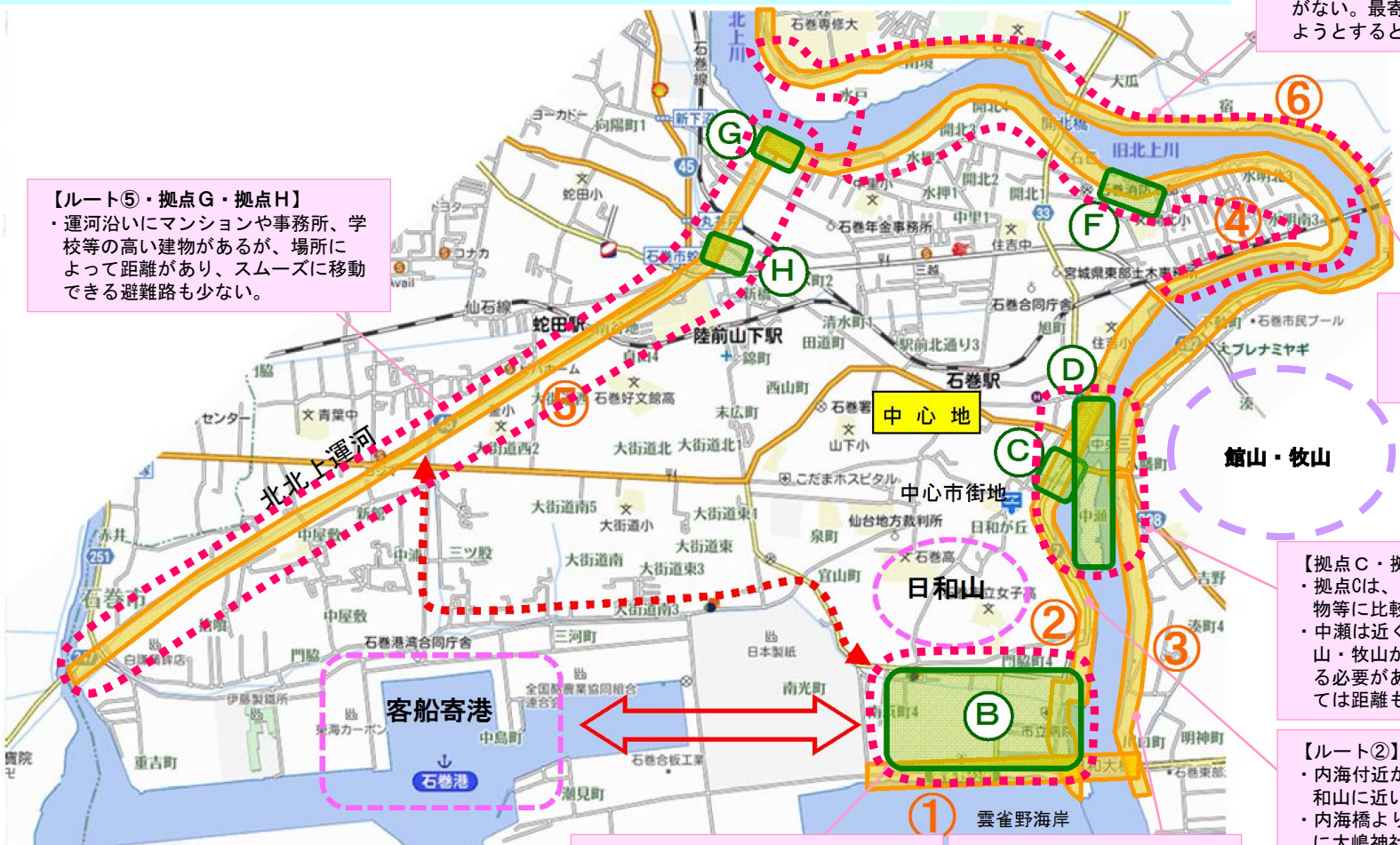
- 【ルート⑥】
- ・ルート⑥の下流は、館山・牧山に近い。

- 【拠点C・拠点D】
- ・拠点Cは、日和山や高い建物等に比較的近い。
 - ・中瀬は近くに日和山、館山・牧山があるが、橋を渡る必要があり、場所によっては距離も遠い。

- 【ルート②】
- ・内海付近から下流側は、日和山に近い。
 - ・内海橋より上流側は、近くに大嶋神社の裏山や住吉小学校等の高い所がある。

- 【ルート①・拠点B】
- ・海岸沿いは、近くに高い場所がない。
 - ・拠点Bは広大な平地であり、場所によっては日和山への避難に時間を要する。

- 【ルート③】
- ・近くに館山・牧山があるが、場所によっては館山・牧山までの避難に相当時間を要する。



プロムナード計画の避難の考え方

避難の考え方と課題

- 各拠点・ルートともに、基本的には近くの山や、高い建物、または内陸側に向けて避難することが必要であり、誘導のサイン等も検討していく。
- 近くに避難できる山や建物がなく、時間がかかる場合には、避難ビル等の、新たな避難施設を確保することが今後の課題となる。

【ルート④・⑥・拠点F】

- 左岸側は近くの山や学校への避難が、右岸側は近くの建物等への避難が想定されるが、場所によって避難に時間がかかるため、避難施設等の避難場所の確保や的確な誘導が課題。

凡 例



避難方向

近くの山や学校へ

内陸部へ

中心地

館山・牧山

【ルート⑤・拠点G・H】

- 場所によって避難に時間がかかるため、避難施設等の避難場所の確保や、的確な誘導が課題。

※山への避難路

- 山への避難路は、急勾配で幅が狭い箇所もあり、高齢者等への配慮が課題。

【ルート①・拠点B】

- 日和山に最短で避難できる避難路の確保や的確な誘導が課題。
- 場所により、日和山までの避難に時間を要することから、折念公園内での高台や避難施設等の確保も必要。

【ルート③】

- 場所により館山・牧山まで相当の時間を要するため、高台や避難場所の確保、的確な誘導が課題。

【拠点C・拠点D】

- 拠点Cは日和山に最短で避難できる避難路の整備が課題。
- 拠点Dは、中瀬下流側等、場所によって避難に時間がかかるため、避難路の整備や、避難施設の確保、的確な誘導が課題。

【ルート②】

- 近くの建物や日和山への避難が想定されるが、場所によって避難に時間がかかるため、避難路の整備や、避難施設の確保、的確な誘導が課題。

(参考) 第2回懇談会の主な意見

(事務局まとめ)

項目	第2回懇談会意見概要	実現に向けての取り組み事項
ルート① 拠点B	<ul style="list-style-type: none"> ・祈念公園か中瀬のどちらかで、ルート全体を博物館と見なして、震災や歴史を一緒にした施設があるとよい。 ・祈念公園に、防潮丘や眺望点があれば良い。 ・水面利用は重要であるが、あれだけの船を全部収容できるのか、不足する分はどこで収容するのか対策を考えないと、現状のままではマリーナ機能は不足している。 ・川がみえる・海がみえるというのが石巻らしさだと思う。祈念公園は、これだけ広くなるので、みんなで知恵を出し合って考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルート全体を博物館とみなした震災・歴史を学ぶ施設整備 ・船舶を収容できる係留船舶収容施設の確保 ・「川がみえる・海がみえる」という石巻らしさに留意する。
中瀬	<ul style="list-style-type: none"> ・中瀬は歴史性を加味した公園整備で良いと思う。 ・ここに来れば石巻はこういう町だったと思わせるサイン・モニュメント・ミュージアム等があり、歴史を語ったり、伝承したり出来る場であったら良い。 ・石巻を案内するガイドボランティアの集う施設があると良い。 ・中瀬の下流の橋が実現すると、左岸の並木にわたってぐるっと回遊できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・石巻が失いつつある歴史・文化・景観など、市民の記憶の復元 ・市民の活動による歴史の伝承 ・中瀬と左右岸との回遊性の確保
ルート③	<ul style="list-style-type: none"> ・右岸側から見たときの、対岸の景観が非常に大事。緑地だけではなく昔のように石積みがあつたりすると非常にいいと思う。 ・湊側にも親水的空間や、渡し船が係留できる部分が欲しい。 ・この辺りが並木として整備されると良いロケーションになると思う。植栽は実現すべきである。 ・湊側も昔は漁港だったので、ある程度歴史的要素は湊側にも分散させても良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昔の石積み護岸の景観に配慮した左岸側の修景
舟運	<ul style="list-style-type: none"> ・渡し船や各拠点を結ぶ定期船があってもいい。船着き場が拠点になって、人が集まるし、動ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・舟運計画の検討
ルート⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクリングロードと人の歩くところとの棲み分けが出来る作り方にしたい。堤防の中腹にサイクリングロードを設ければ、良い使い方ができるのではないか。 ・全部でなくても良いので、散策路はチップを利用した足にやさしい舗装にしてほしい。 ・両岸堤防を整備することにより、大きな散策路・サイクリングロードとなる。 ・開北橋の下流の真野川水門あたりの堤防に、腹付け盛土することで部分的に連続並木が出来るのではないか。 ・ルート④と⑥のつながりが明確でないため、開北橋を利用すると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道とサイクリングロードの棲み分けを検討 ・歩きやすさに配慮した舗装等の検討 ・周遊性の確保 ・堤防沿いの連続並木の空間確保

項目	第1回懇談会意見概要	実現に向けての取り組み事項
拠点C	<ul style="list-style-type: none"> 河川敷の占用に関する規制が平成23年度から緩和され、飲食店やオープンカフェ等を含む広場・イベント等でも利用できるようになった。ぜひ活用してもらいたい 堤防と背後地の接続部分について、行政も接続部分に対する事業支援をいっしょに考えて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 河川空間の利活用の拡大 堤防と背後地の接続部分の支援策
ルート⑤	<ul style="list-style-type: none"> 北北上運河は突き当たりで止まっているが、周遊性として、どこかでまげて、拠点Bにつなげるようなことも必要ではないか。 北北上運河の松が全体の約4割が枯れている。景観性を高める場合には新たな植栽も考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 周遊性に配慮したルートの接続 松並木の景観の保全
サイン	<ul style="list-style-type: none"> 市民参加のサイン整備プロジェクトがもう一度できればと思っている。サインの文書までできていよいよ提示しようという段階で被災があった 	<ul style="list-style-type: none"> 市民参加のサインプロジェクト
宿泊機能	<ul style="list-style-type: none"> プロムナード計画でも観光は目玉になっている。ただし、泊まる場所がない。観光では宿泊は重要であり観光全体の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光全体の課題としての宿泊機能の確保
日和山	<ul style="list-style-type: none"> 日和山を水辺に近いビューポイントとして計画に位置づけることはよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 日和山のビューポイントとしての活用